９月４日（水）

グリーンウォーキングツアー（森林活用戦略及び水管理と都市計画）視察

メルボルン市役所１階メディアルームにて、最初に、メルボルン市の森林活用戦略についてスライド等を活用した説明を伺った。

森林活用戦略について説明聴取

メルボルン市のグリーン・インフラが抱える最初の課題は、どの都市も同様であると思うが、「まちの集約化」である。オーストラリアは他国に比べ人口が都市部に集中しており、限られた空間を他のインフラ（道路や建物等）整備と奪い合うことになってしまう。

また、雨は少ないものの、気候変動により洪水が増える予想もあるので、それにも対応しないといけない。特に気になるのはヒートアイランド現象であり、メルボルン市が直面している問題として、熱中症により亡くなる人が増加しているという現状もある。

オーストラリアでは 10 年以上干ばつが続いており、その際に節水を行った結果、マイナスの影響もあった。１つは水を使って気温を下げなかったため熱量が上がったということ、２つ目は節水により植物にダメージを与えたことであり、樹木の老朽化も著しい状態となった。

また、地表面のほとんどがコンクリート化されているため、表面の汚れを含んだ汚水が湾に直接流れ込み、その結果、湾が汚染されている。

これらの課題に対応するため、将来に向けた３つの戦略として、気候変動に対する戦略、アーバンフォレストの戦略、オープンスペースの活用による戦略を立てている。

我々のビジョンは、「森の中にまちがある」であり、現在の木かげ面積を倍にすることを目標としている。その結果、都市部の気温を４度下げることが可能となる。そして、我々は、気温のデータをとり、温度が高い場所にターゲットを当て木を植えることを考えている。

水が浸透しない街路への対応として、リトルコリンズストリートの歩道にツリーピットを設置する試みを行っており、歩道の水を吸収し、排水溝に入る前に吸収した水をフィルターにかけることで、水をきれいにすることができる。

そのほか、木の登録制度を設け、各家庭で守るべき木を登録する取り組みも行っている。

調査によると、メルボルンには生活するに足りる降雨量があるため、流出する降雨を採水して再利用する取り組みを考えている。例えば、湿地帯の下に人工の巨大貯水タンクを設置し、流出する水を蓄え、公園や街路樹に再利用しており、フィッツロイ庭園にも同様の貯水タンクを設置している。

グリーン・スペースについてであるが、将来の市民に十分な緑地を提供することを目標としているが、現状では十分でないと考えている。そこで緑地を 7.6%増やすことを目標としており、例えば、市民やディベロッパー向けの「グローイング・グリーンガイド」を作成し、建物の屋上や壁の緑化を奨励している。

また、緑の価値を測る「アイ・ツリー」制度を導入し、予算に際しての費用対効果を試算しており、現在は７億３千万ドル相当と試算されている。この試算には緑が生態系に果たしている貢献度は計算に入れていない。なお、ニューヨークでもアイ・ツリーを活用しており、木に１ドル投資したことに対し５ドル 60 セントの効果が出ると弾き出している。現在のドイル市長も緑を大切にすることに熱心であり、自ら推進役を買って出ている。

2009 年の緑地面積は 13.6%であり、1988 年の 24.6%から半減しているため、今後 20 年間で元の数値に戻したいと考えている。今後も緑を増やすことで気候変動に対応し、さらに住みやすいまちをつくりたいとの説明であった。

【質疑応答　要旨】

○最終的な緑地面積の目標は。

→木かげの部分を 22%から 42%に増やすことと、緑地の面積を 7.6%増やすことである。

○グローイング・グリーンガイドの中に、「何%の緑を確保しなさい」等の市民に対する規制事項はあるのか。

→建築条件に緑の確保を含めることにはしていないが、グリーン・ルーフ等のアドバイスは行っている。新しいテクノロジーであり、我々もまだ手探り状態である。

次に、メルボルン市の水管理と都市計画に関して、これから視察を行う「ツリーピット」と「フィッツロイ庭園に設置された貯水タンク」について説明を受けた。

メルボルン市の水管理は、メルボルン市全体を巨大な集水域にするというコンセプトのもと、豪雨水採取システムを採用している。利点としては３点あり、汚染物質の大幅削減、水中に浮遊する土壌の削減、流水路や河川等へのごみの流入防止がある。

ツリーピットは豪雨水を植木の下の穴から吸収するシステムであるが、水まきのための給水を節約するとともに、豪雨水の栄養分が木の成長を助けている。現在の課題は設置に多額の費用がかかることであり、現在１セットで６千ドルかかっているが、２～３千ドル程度でできないかを検討している。

貯水タンクの設置には６百万ドルの費用がかかるが、その３分の１は連邦政府の助

成である。現在のランニングコストはこれまでの上水と変わらないが、長いスパンで考えればコストも安くなり、干ばつや洪水への対応も可能になるなど、メリットも多いと考えている。フィッツロイ庭園以外に現在２カ所設置しているが、州全体でも水システムの見直しを考えており、さらにタンクを増やしていく予定であるとの説明であった。

「費用の３分の２はメルボルン市が負担しているのか」との質問に対し、「当初、連邦政府と市の負担割合は半分ずつであったが、その後のコスト増、特に土壌汚染対策のコストが増大し、結果的に市の負担が３分の２になった」との答えであった。

説明聴取後、リトルコリンズストリートを通り、ツリーピットの視察を行った。その後、フィッツロイ庭園まで足を延ばして、貯水タンクの視察を行った。春一番の強風が吹く中、代表団一行は熱心に耳を傾け視察を行った。

ツリーピット

フィッツロイ庭園の貯水タンク

メルボルン市長表敬訪問

メルボルン市役所に到着すると、正面玄関において、ケビン・ルーイ議員をはじめ、メルボルン市関係者の方々や、多くのメルボルン市民の皆さんがあたたかい拍手で代表団を迎えてくれた。

署名式

村上副市長、美延市会議長、スーザン・ライリー副市長（市長代行）が、記念に訪問したことを示す書簡にそれぞれが署名したのち、両市からお互いの出席メンバーの紹介を行い、スーザン・ライリー副市長、村上副市長、美延市会議長が挨拶を行った。

【ライリー副市長　挨拶要旨】

メルボルン市を代表して、皆様を市庁舎にお迎えすることをうれしく思う。昨夜の夕食会も大変楽しませていただいた。

姉妹都市提携 35 年の中で、ビジネスやスポーツ、科学など多くの分野で関係を深めていった。これまで多くの事を達成したが、まだまだ学ぶことがたくさんあると考えている。今後ますます協力していく機会があると信じている。

我々の友好関係は長く続くと信じており、昨日のイチョウの木の植樹も、心に残る思い出となっている。昨晩も申し上げたが、来年には我々の代表団が大阪を訪問する予定であり、我々の強固な関係に新たな側面が加わると信じている。大阪市が果たしてきた役割、特にＢＰＣの設立や運営に敬意を表しており、明日の円卓会議をとても楽しみにしている。

【村上副市長　挨拶要旨】

姉妹都市提携 35 周年を記念してメルボルンを訪問することができ光栄に思う。また、昨日は、心のこもった夕食会を開催いただき感謝申し上げる。

大阪とメルボルンは、姉妹港やビジネスパートナー都市提携等を軸に、両市の関係の重要性はさらに増していくと考えており、今回、ＢＰＣラウンドテーブル会議の開催都市になっていただき、重要な場を設定いただき感謝申し上げる。

35 周年を記念して、大阪でもさまざまな記念行事を開催しており、多くの市民にメルボルンの魅力を発信している。ぜひ大阪にもお越しいただき、大阪の魅力を感じていただきたい。

今回の訪問を機に、両市の友好関係が深まることを祈念する。

出張メンバーの紹介

【美延市会議長　挨拶要旨】

姉妹都市提携 35 周年を記念して、メルボルンにお招きいただいたことを感謝申し上げる。これまでの交流の成果と意義を改めて確認するとともに、両市の絆が今まで以上に緊密になり、一層発展することを祈念する。

今回の訪問では、ドックランズの視察やグリーンウォーキングツアーなどに参加させていただくとともに、活発な意見交換を行うことができた。大阪市にとってもまちづくりや集客観光施策は重要な課題であり、先進的な取り組み事例を市政の参考にさせていただきたい。メルボルン市議会のご発展と大阪・メルボルン

両市の繁栄を祈念する。

引き続き、記念品の交換をそれぞれ行ったのち、議場へ移動して記念撮影を行い、表敬訪問は終了した。

記念品の交換

ビクトリア州計画大臣表敬訪問

ビクトリア州議事堂に移動し、ヤラ川やドックランズの再開発など都市計画を担当するマシュー・ガイ計画担当大臣を表敬訪問した。

計画大臣、村上副市長、美延市会議長の挨拶のあと、両市の都市計画における課題などについて意見交換をする機会となり、有意義な訪問となった。

【村上副市長　挨拶要旨】

平素より、大阪市とメルボルン市の姉妹都市関係にご理解・ご協力を賜り大阪市民を代表してお礼申し上げる。1978 年に大阪とメルボルンは姉妹都市の絆で結ばれ、今年で 35 周年を迎えることができた。以来、メルボルン市、ビクトリア州とともにさまざまな分野で交流を積み重ね、緊密な関係を構築した。

昨日もドックランズの開発状況を興味深く見せていただいた。先進的なまちづくりの姿を目の当たりにし、今後の市政の参考にさせていただきたい。今後とも、経済、文化、観光、教育などさまざまな分野において交流を深めたい。

大阪とメルボルン市、ビクトリア州の友好関係がますます深まることを祈念するとともに、ビクトリア州の発展を祈念する。

【マシュー・ガイ計画担当大臣　答礼要旨】

ドックランズに訪問いただいてとてもうれしく思う。20～25 年かけて再生している地域であり、日々趣が変わる、メルボルンの顔が変わるという地域である。中でもドックランズの水辺の開発が特に大きな開発であり、この先、60 万人以上の方が住むことができる街になると考えている。

【美延市会議長　挨拶要旨】

お忙しい中時間をとっていただき感謝申し上げる。

ビクトリア州の印象として、歴史的な建造物、広々とした公園、整備された道路など、都市景観が素晴らしいと感じた。

大阪市においてもまちづくりや集客観光施策は市政の重要課題であり、先進的な取り組み事例を参考にさせていただきたい。大阪とビクトリア州の交流を一層深めるためにも、大阪の町並みもぜひご覧いただきたい。

ビクトリア州のますますのご発展と大臣のご健勝を祈念する。

【懇談概要】

大阪市：ドックランズの再開発の状況を視察させていただいた。どんどん発展している印象を受けた。

大　臣：メルボルンの街は毎年８万人くらいの人口が増えており、国内でも伸び率が大きい街である。予定では、今後 20 年以内に、メトロが走る地域では国内最大の人口になるだろう。ただ、インフラ問題を抱えることにもなるので、拡大を喜ぶ人とそうでない人がいる。

マシュー・ガイ計画担当大臣との懇談

大阪市：大阪ではインフラ整備はほぼ終わっているが、人口が減少しているので、発展させるには難しい問題を抱えている。

大　臣：オーストラリアの人口増加の内、60%は海外からの移民である。最近ではインドからの方が増えている。

大阪市：国の施策との関わりもあるが、そういった事にも注目しながら交流を深めていきたい。

大　臣：オーストラリアでは、都市計画については州政府で大枠の枠組みを決めるが、実際は地方自治体が深くかかわっている。どの州政府でも、計画大臣のポストは議論の中心になりやすい。

大阪市：州の財政と行政改革の状況は。

大　臣：ビクトリア州は国内で唯一の黒字の州である。州政府の負債は世界的レベルで見てもかなり少ない。ＧＤＰの３％である。州政府と連邦政府の予算立ては違うとはいえ、州政府の予算の多くは連邦政府が徴収している所得税が回ってきている。大きな地下資源もないので、収益の多くは行政サービスから生み出されるものである。

大阪市：地下鉄と高速道路の計画が前に進まない原因は。

大　臣：次の大規模工事は「地下鉄」にするか「地下道」にするかで議論がある。地下鉄であれば政府が負債を負うことになり、道路であれば徴収した料金で賄うので負債は負わない。地下鉄を望む声が大きいが、政府が負債を負うことにより信用格付けのＡＡＡが確保できるかも議論している。

大阪市：人口が増加する中、渋滞の解消は待ったなしではないのか。

大　臣：その通りである。まずは、地下道を実行に移したい。地下鉄については５年後くらいには実行に移したいと考えている。

懇談終了後、記念品の交換をそれぞれ行ったのち、ビクトリア州議会の上院・下院両議場を見学し、終了した。

マシュー・ガイ計画担当大臣を囲んで

大阪プロモーションセミナー（投資促進）

メルボルンコンベンション＆エキシビジョンセンターで開催された大阪市主催の大阪プロモーションセミナーに参加し、大阪への投資促進を図るための講演やプレセンテーションを聴取した。

メルボルンコンベンション＆エキシビジョンセンターは、1990 年代に建設された建

築物であり、ヤラ川エリアの再開発に伴い増築され、新しい国際会議場となった。コンベンション施設としては、世界で初めて環境格付けのグリーンスター６つ星を獲得しており、環境にも配慮した建築物である。

大阪プロモーションセミナーは、メルボルン企業やビジネスパートナー都市をターゲットに、関西イノベーション国際戦略特区におけるライフサイエンス分野や新エネルギー分野での税制優遇や規制緩和等を紹介し、大阪への投資促進を図るものである。あわせて、日本や大阪のビジネス環境について、企業からプレゼンテーションを行っていただき、大阪・メルボルン間の交流を促すための契機になることを目的としている。

プロモーションセミナーの様子

セミナーを熱心に聞く代表団一行

セミナーには、メルボルン企業を初め、ビジネスパートナー都市からも多数の方が参加され、熱心にプレゼンテーションを聞いていた。

鳥山　大阪市経済戦略局都市間交流担当課長の司会のもと、村上副市長の主催者挨拶、大阪市会議員の紹介ののち、ケビン・ルーイ議員と側嶋日本総領事から来賓挨拶をいただいた。

【ケビン・ルーイ議員　挨拶要旨】

メルボルン市を代表して皆様を歓迎する。そして、大阪市からの代表団の皆様を歓迎する。メルボルンに滞在中にさまざまな情報を収集していただきたい。

1978 年にメルボルンと大阪は姉妹都市の提携を結び、今年で 35 周年を迎えることができた。今後も引き続き、経済面においてもお互いの交流を積み重ね、より深い関係を構築していきたい。

【側嶋日本総領事　挨拶要旨】

メルボルンは３年連続で住みやすい都市に選ばれた素晴らしい都市である。一方の大阪市も素晴らしい都市であり、アジアの成長を取り込み創造的な世界都市としての取り組みを進めている。

美延市会議長におかれても、大阪市会のホームページで、住民に対して事業・施策の課題について説明責任を果たされようとしている。

このような状況のもと、本セミナーは大変重要であると考えている。皆様どうか楽しんでセミナーを受けていただきたい。

続いて、堤　大阪市経済戦略局理事より、関西イノベーション国際戦略特区と大阪の魅力について、基調講演が行われた。

【講演要旨】

大阪市は関西圏の中心に位置し、人口は約 270 万人である。関西圏の経済規模は日本全体の 15%を占め、ドバイ一国をしのぐほどの規模がある。大阪・関西の利点は、武田薬品やシャープなど数々の優秀な企業が存在する点にある。ノーベル賞を受賞した山中教授も大阪出身である。

堤　大阪市経済戦略局理事の基調講演

2011 年に、関西地区として、医療やスマートコミュニティなど６つの特定分野について９つの地域が特区の指定を受けた。国との協議により規制が緩和されており、事業承認のスピードアップが図られた。また、大阪のナレッジキャピタルを中心に、ＰＭＤＡ（医薬品医療総合機構）の機能が今年の秋に設置される。

大阪市にある２つの特区では、企業誘致を促すため地方税の優遇措置を講じており、最初の５年間は無料、残りの５年間は２分の１に軽減している。特区の一つである大阪駅周辺は今年の４月にオープンしたばかりであり、もう一つのベイエリア地区も開発を進めている。

次に、関係企業から、それぞれプレゼンテーションが行われた。

○ ジェトロシドニー事務所　土屋事務所長

「日本復興－大阪を含む経済状況、ビジネスの機会」

【要旨】

日本経済はアベノミクスと呼ばれる経済政策により大きく成長した。デフレからの脱却を目指す３本の矢と言われているが、インターネットによる大衆薬の販売を解禁するなど、規制緩和が図られている。

オーストラリアの企業にとって、日本にはどのような可能性があるのか。日本では

高齢化が特に進んでおり、医療・薬品分野がますます発展することが予想される。メルボルンの企業はこの分野で非常にすぐれており、すばらしい実績をあげている。
　また、ロボット技術の発展も目覚ましく、特に医療・介護関連で盛んに研究が行われている。これらの分野の関係企業には大いに可能性があると考える。

○ 三菱地所株式会社　野田大阪支店次長
　「グランフロント大阪－大阪イノベーションハブ」
【要旨】
　グランフロント大阪が本年４月にオープンした。旧国鉄が資産を保有していたが、2004 年に大阪市が基本構想を策定し、2010 年に新しいビルの建設がスタートした。本年４月 26 日のオープン時には 34 万人の来場者があり、入場制限が行われるほどであった。
　大阪駅に隣接する南館には事務所や商業施設がある。また北館には、商業施設や事務所のほかに、「感性」と「技術」が融合して新たな知的価値を創り出す複合施設である「ナレッジキャピタル」がある
　なお、雨水の再利用や太陽光発電による新エネルギーの活用、エネルギーマネジメントによる省エネルギー化など、二酸化炭素削減の取り組みも積極的に進めており、入居している海外ビジネス関係者から好評を得ている。

○ トールグループ（在阪豪州企業）本社　ジョン・プラティス総括課長
　「大阪・日本におけるトールのビジネス」
【要旨】
　トール社は 1888 年にオーストラリアで設立され、現在 55 カ国 1200 の拠点でビジネスを行っている。我々は特に安全性を重視しており、毎日無事故であることを重視している。
　大阪でビジネスを行う利点としては、日本で第２の都市であり、大企業の支店がある。インフラとして大阪港や関西空港があり、ネットワークの結節地として立地条件がすぐれている。また、共同で利用することができるので、リーズナブルな運賃で賄うことができるという点があると考えている。

　その後、質疑応答に入り、「夢洲のメガソーラープロジェクトに対する助成の有無」についての質問に対し、鳥山課長より「メガソーラーに特化したインセンティブはないが、夢洲・咲洲の誘致は大阪市を挙げて積極的に行っており、条件を聞いて担当部署につなげたい」と答弁した。

ネットワーキングレセプション兼ＢＰＣウェルカムレセプション

大阪プロモーションセミナー散会後、隣のクラレンドンルームに移動し、大阪市とメルボルン市の共催で行ったレセプションに参加した。

レセプションは、スーザン・ライリー副市長を初めとするメルボルン市関係者、先ほど行われたプロモーションセミナーの参加者、ビジネスパートナー都市の関係者、メルボルン市が招待したデザイン産業や教育関係の関係者等が多数参加し、盛大に行われた。

先住民族スピーチのセレモニーが行われた後、スーザン・ライリー副市長、村上副市長からそれぞれ挨拶を行った。

【村上副市長　挨拶要旨】

大阪市を代表して、本日このような場を持てたこと、また、たくさんの方にお越しいただいたことを感謝申し上げる。

先ほどのセミナーでは、大阪・関西の持つ魅力の一端をわかっていただけたと思うが、ぜひとも実際に大阪にお越しいただき、その姿を目の当たりにしていただきたい。

本日のお集まりの皆様には、この機会に交流を深めていただき、アジア・太平洋地域における関係強化、ビジネス交流促進につなげていただきたい。

多大なご尽力をいただいた関係者に重ねてお礼申し上げるとともに、ＢＰＣ間の交流が一層深まるよう祈念する。

美延市会議長による乾杯の発声

挨拶の後、デロイト・オーストラリア社のゲルハルト・フォルスター最高戦略責任者から、「イノベーションとデザイン思考」について基調講演が行われた。

デロイト・オーストラリア社は、イノベーションと教育に関して、内部革新や教育に関するリーダーとなることで、効果的な展開方策を顧客に提供している。また、フォルスター氏は、デロイト社のイノベーション・プログラムのリーダーとして、デザイン思考のような新しいアプローチの方法を絶えず探究しており、戦略計画の策定や計画の実行を中心的に担っている。

基調講演の後、美延市会議長から、大阪市とメルボルン市、またＢＰＣ間の友好関係がより一層発展することを祈念して乾杯を行い、代表団一行も、多様な参加者と積極的に情報交換を行い、関係強化をはかるべく交流を深めた。

メルボルン・ファッションウィーク・ランウェイ・イベント視察

メルボルンには、ＲＭＩＴ大学（ロイヤルメルボルン工科大学)、モナッシュ、スウィンバーン大学など世界有数のデザインの教育機関があり、デザイン業界に新しい才能を数多く輩出している。ビクトリア州では 18 万５千人以上がデザイン関連の仕事に携わっており、4,000 以上のデザインコンサルタント会社が存在している。これらの企業は、ビクトリア州にデザイン関連の輸出３億豪ドルを含めて 70 億豪ドルの経済波及効果を与えている。

メルボルン市のデザイン業界は、造形デザイン、工業及び製品デザイン、ビジュアル・コミュニケーション、マルチメディアなど多岐にわたり、高い信頼性を誇り、海外の顧客とも長期的な関係を築いている。

メルボルン・スプリング・ファッション・ウィークは、毎年９月の第１週目に行われ、毎回 10 万人以上の来場者を集めている。今年で 19 回目を迎え、文化への関心が高いメルボルン市民のバックアップを受け、ファッションとデザインの街としての存在感と魅力を与えている。期間中は、さまざまな会場でランウェイファッションショーやワークショップ、セミナー、各種パーティー等が行われる。

代表団一行は、夜８時 30 分から市役所ホールで開かれたランウェイ・イベントを視察した。このイベントにはオーストラリアの著名なデザイナーが参加しており、モデルや芸術関係者が多数集まっていた。また、多数のメルボルン市民が集まり、市民のファッションに対する関心の高さが感じられた。

華やかなランウェイ・イベント

荘厳なシティホール内に特別に設けられたランウェイを、華やかな衣装を身につけたモデルたちが、鮮やかな映像の中でショーを行った。また、会場には「プラチナバー」も設けられ、ＶＩＰゲストにおもてなしを提供していた。代表団一行は華やかな雰囲気の中で行われたファッションショーを堪能した。